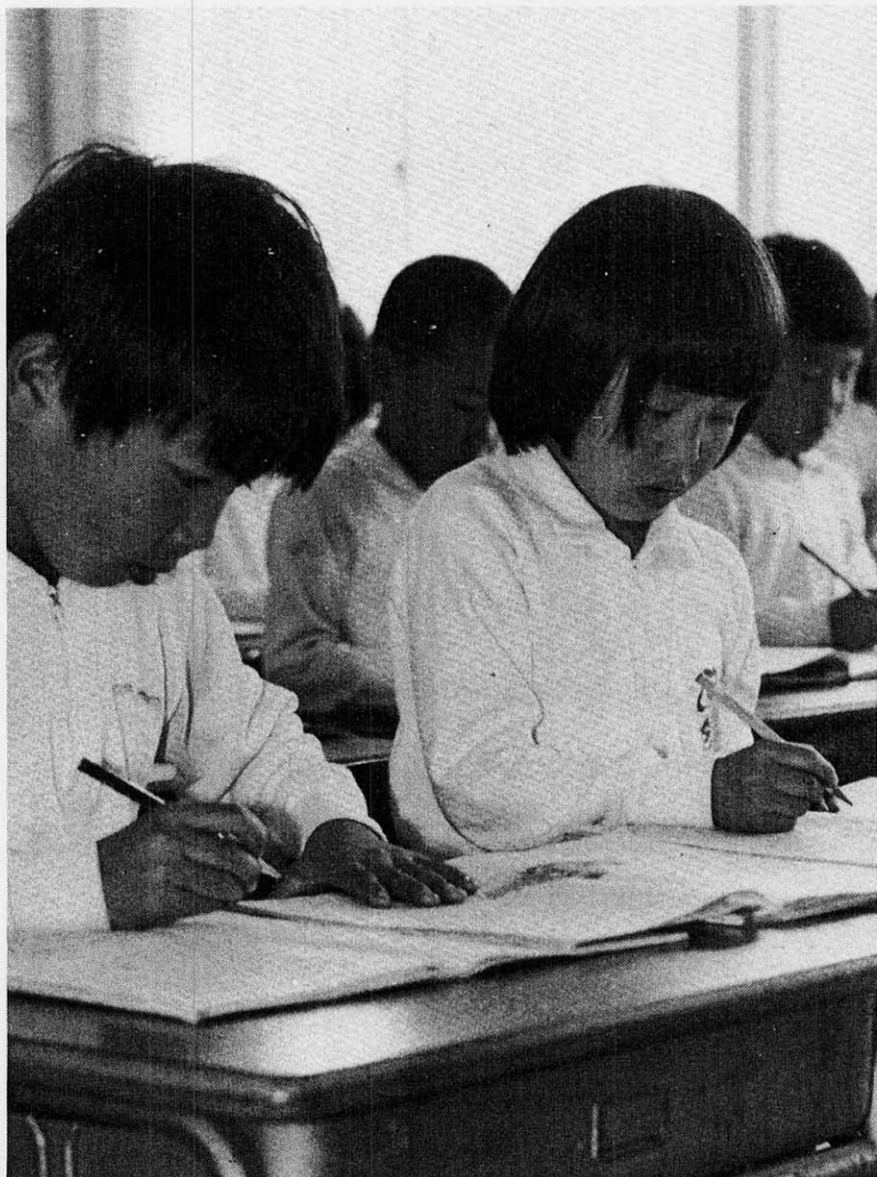




5 月 号



となりの子は  
しせいがつってもいい。  
でも、「う」の字がちょっと  
へんなかたちだな？  
そこをなおすと  
すごくよくなるのだがな――。

ほくもまけずに  
いいしせいで書いた。  
「ふ」がおかしくなった。  
もっと、もっとれんしゅうして  
いい五十音にしよう。

(ほくもまけずに — 竜谷小)

昭和57年5月1日  
編集 / 発行  
岡崎市教育委員会

## —教育随想—

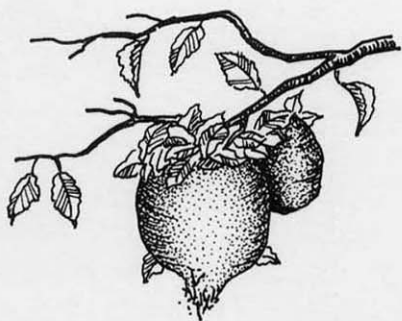
子どもに  
「体力」と「耐力」を

杉浦 壽康

近頃の子どもの体位は、年々向上しているが、体力は向上しているとは言えない。しばしば頭痛や腹痛を訴えたり、長時間立っていると倒れ易い子どもが多いと聞く。背筋力の低下、骨折、脊椎側弯症の子どもが増加していることは、体力の低下を物語っている。

体力は、運動能力の代名詞のように、一般に用いられているが、体力の真の定義は、「体位（身体の大きさ）、運動能力（狭義の体力）と、人格（性格）、知能、精神力を包括したものと」とされている（川畑愛義著・学校保健）

近年の子どもの体力低下の原因は、いろいろ考えられるが、都市化と交通機関の発達や、教科優先の学校教育、教育ママによる学習の強制などにより、子どもたちが、自由に遊ぶ場所と時間が奪われたことが、原因の一つとも云える。情報の発達は、学校における教科教育もさることながら、子どもたちに、不必要な知



識を詰め込ませ、頭でっかちな子どもを作り上げている。体位は向上し、知識はかり豊かになっても、狭義の体力や、人格形成がそれに伴わないため、頭痛や腹痛、倒れ易いといった神経症々状や、心身症々状を起し易くなっているのではないだろうか。

子どもの神経症や心身症が多いと云われる。時々頭痛や腹痛を起すくらいなのは、まだ軽い方である。頭痛や腹痛のため、子どもが学校を休んだりすると、世の親は、学業が遅れるのではないかと心配する。学業の方を、子どもの体力より重大視する傾向がある。教育ママにとって、子どもが登校拒否でも起こしたならば、一層深刻である。登校拒否は神経症の一つである。最近の子どもの非行を見ていると、神経症が高し、最悪の状態になったものとして捉えることもできる。神経症や心身症の子どもの性格は、概ね、「気が小さく、神経質で、自己顕示

欲が強く、我儘で勝気であり、完全癖がある。不満や葛藤をうまく処理できない。家庭の背景は、過保護または過干渉であり、母親が過保護、過干渉であることが多い。また、幼ない時から祖父母に甘やかされ、無責任に可愛がられて育てられている場合も多い。要するに幼ない時から「耐えること」（耐力）を身につけるよう育てられていない。最近の若い母親は子どもに「耐えること」を躡っていないようである。いや、自分が身につけていないから、子どもを躡ることができないのかも知れない。

子どもは、三才から五才頃にかけて、自我が確立し自立しようと努力する。この時期に家庭で甘やかされ、我儘に育てられ「耐えること」（耐力）を身につけることができなかった子どもは、成長した後、我慢しなければならぬ状況に置かれると、不満や葛藤をどう処理してよいか分からず、その結果神経症や心身症になり、登校拒否をしたり、更に家庭内あるいは校内暴力を起すようになるのではないだろうか。

人の性格は、家庭教育に影響される。子どもに体力と耐力をつけるためには、幼ない頃からの家庭での教育と躡が大切であり、最近の子どもの体力低下や、神経症、非行の増加の原因を、社会や学校教育だけに求めるのは、正しいとは云えない。戦後の「甘やかし」家庭教育が、今日の子どもの不幸にしているのではないだろうか。（小児科医）



## パリの魅力

鈴木 一生

花のバリ到着二日目、仲間といっしょに凱旋門を見学。一同メガネをかけ、カメラをぶら下げた日本人スタイルで、地下道に降りて行った。地上のはなやかさと比べると、非常に静かな暗いムードを持っている。肩を並べて歩いていると、突然、前に新聞紙を持った男が近づき、私に新聞紙を押しつけてきた。雑誌を売りつけたのかと思い、身ぶりでいらなうと思し表示をするが、なお押しつけてくる。日本語と英語をあわせたおかしな合言葉を叫び、手をふり上げると、急にうしろから力が加わった。頭に浮かんだのはバリ一日目、ガイドから注意のあったヒッピー少年スリ団かということ。あわててポケットを見ると、パスポートをはじめ全部取られた。あわてて追いかけて乱闘のすえ取り戻した。もうこんな治安の悪いバリなどは二度と行きたくない。その夜、バリのはなやかさがさめ、そう思った。パリの魅力は悪の魅力とか、その時は二度と行かないと思っていたバリ



世紀初期の矢作川流域推測図  
(昭41. 市勢要覧)

—ふるさとの山河—

矢作川 (2)

河道変遷

矢作川は、「ふるさとの川」である。古くから、清い流れの美しい川として知られ、その名は、古墳時代、日本武尊が東征の時、この地で川辺の竹をとって、矢を作られたことから名づけられたといわれている。

現在の矢作川は流れもゆるやかに悠々とその姿を現わしているが、一三九九年（応永六）の「六ッ名堤」の築堤が行われるまでは自然の流れのままにたくさん流路に分かれ、わがもの顔に三河湾に注いでいたのである。縄文時代の矢作川の河道は、現在の東海道本線鉄橋の北五百メートルくらいまで現在の河道のように流れ、そこから渡町の南側を通過して東牧内町の方へ流れていた。また分流が東海道本線鉄橋付近から六ッ美の東側を通過して南へ流れていた。それが弥生時代になると川の流れが乱れ、洪水が起きやすくなり、矢作川の河道は、①西大友↓西本郷↓富永↓坂戸②中園↓筒針③現河道

↓八帖↓六ッ美東部、の三つに分かれて流れた。古墳時代になると河道は、大門・大樹寺を南に下って日名の北側で現在の河道を通り、東海道本線鉄橋の南で主流は六ッ美の東側を通過して南へ流れていた。

一四五二年から一四五五年の間に、西郷弾正左衛門頼朝が岡崎城築城のためにいくつかにも分かれていた水路を合わせて築堤し、先史時代から中世まで続いた乱れた河道は現在とほぼ同じになった。この築堤により、矢作川東岸、矢作、安城東部・桜井などは矢作川の乱流がなくなったが、これに対して、木戸（安城市）から下流の安藤川、広田川から南の幡豆郡地方では、矢作川は平野をわがもの顔に走りめぐり、十分に整備されなかった。そのため、上流からの水の流れが悪く、土砂が堆積して大雨が降るたびに川が氾濫し、大きな被害を与えた。

そこで、一六〇五年（慶長一〇）幕府

の命令により、木戸から洪積層の台地を米津村まで掘り割りして矢作川の流れを分け、矢作新川が開かれた。この新川の開さくにより木戸以南の矢作川（現矢作古川）がまとめられ、また上流の水の流れがよくなった。当時の矢作新川は、矢作古川に比べて勾配が急で海までの距離も半分しかなかったため水はけがよく、しだいに矢作川の主流となり、単に矢作川と呼ばれるようになった。かつての主流は、矢作古川と呼ばれるようになった。その後、矢作新川の河口一帯は自然の土砂の堆積により、新田開拓が進められた。新川の流路にはデルタができ、次第に長くなっていき、現在の河口を呈している。

（奥殿小 尾藤 広行）



岡崎市上空からの矢作川

がなつかしい。あの体格は大人以上でありながら子供っぽい顔をした少年たちにむしように会いたい。そんなこの頃だ。  
(美川中)

ことば

柏原澄子

「ノールウェーへ行かない」と、誘いの電話。旅に出ることの好きな私は、この話にのったものの、何十年前に習った英語はすっかり忘れていた。

「通訳をたのんだよ。」

と、成田から爆音高く空の人となった。機内では、日本人の顔も多くスチュワーデスの日本語もあって、ことばの通じない国へ旅立つという感じはしなかった。そして、オスロの空港へおり立った時から、私の緊張は始まったはずだけど……

朝のホテルで

「リンリン、リンリン。」

受話機を取り上げたもののさっぱり……

「Nちゃん、かわって。」

「モーニングコールだよ。」

それからの朝の電話は

「おはようございます。ありがとうございます。」

船の中で会ったノールウェーの人とにこり笑をかわしただけで、心はあったかくなった。

ことばのわからない旅だったけど、もう一度行きたい。  
(常東小)







三年たつて帰国する時、まだできていませんでした。

◆海外派遣を経験して

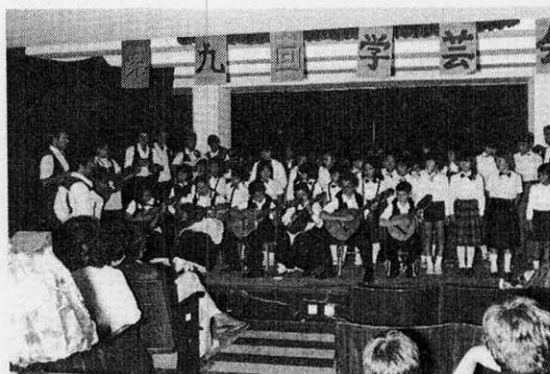
佐々木 一クラス十人ぐらいで、子供たち一人ひとりとのつながりが深かったです。教材がなくて手作りの教材で指導しました。教育効果は上がったですね。

それにしても、日本は物が豊富ですね。ちょっとありすぎるぐらいですね。

菅沼 一人ひとりをしっかり見て、どんな状態で、どの方向に伸ばしてやろう。また、どうすれば良いのかを、常に考えたいですね。ハーフの子供を担当したとき、つくづくそう思いました。わかりやすく言ったつもりでもだめでした。お互いに悲しくなりました。

石川 校内暴力で荒れるアメリカでも、日本以上にすばらしい学校がありました。そこでは、保護者だけでなく、学区とのつながりが深かったです。学区の人が、ボランティアで授業の手伝いまでしてくれますね。それと、優秀な学校ほど一斉授業が多かったですね。一斉授業の中で一人ひとりを伸ばすことを考えた方が、教育効果上がるかも知れません。

出席者  
石川 昌弘(男川小)  
ニューヨーク日本人学校  
佐々木俊輔(根石小)  
ボコタ日本人学校(コロンビア)  
菅沼 国雄(南中)  
ラスバルナス日本人学校  
(スペイン)



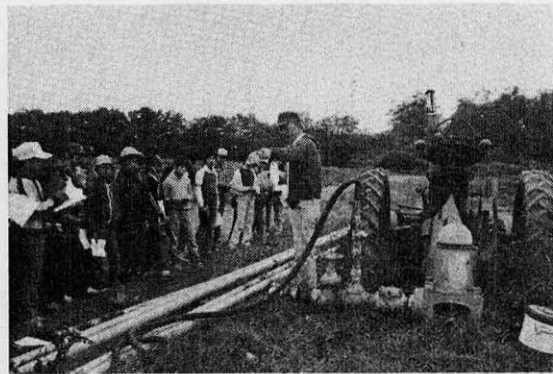
●姉妹校と合唱・合奏するラスバルナス日本人学校の友だち



●ボゴタ日本人学校小学部1年生の授業



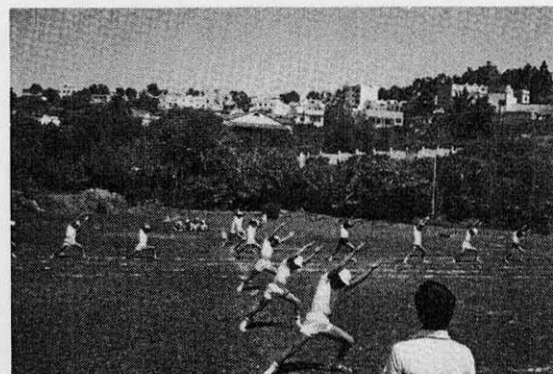
●スペイン・日本の子どもたちの交歓風景



●農園で学習するニューヨーク日本人学校の子どもたち



●ボゴタ日本人学校での卒業式(中学部1人)



●組み立て体操をするラスバルナス日本人学校の友だち

## 主体的な

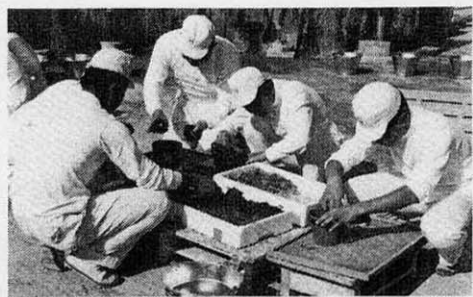
## 授業をめざして

甲山中 石原 博文

この頃、授業中ではもとより、学校生活の各場面において自分に都合が悪いこと、得にならぬことは、無関心を装ったり、責任回避などをして怠ける生徒が目立って多くなってきている。

しかし、一方では、汗水流して責任を果す生徒や、自分で進むべき方向を定めて着実に生活をしている生徒もある。生徒は導き方、育て方によって、前者のようにも後者のようにも成長していく。後者のような生徒に対する具体的な指導方法はと考えていた折、東海北陸技家大会を迎えることになり、「生徒それぞれの問題意識を高める授業過程」を、究めることとなった。これは、生徒の個性を生かした主体的な学習に立脚しなければならぬ、くしくも私自身の課題と同じであった。

その授業過程は、オリエンテーションの学習、個人調べ、授業計画からなる問題把握の第一段階と、個人追究、問題集約、共同追究からなる第二段階の追究。次に検証、一般化、生活化



からなる第三段階という三段階の授業過程からなっている。すなわち、オリエンテーションの学習で自分の問題（課題）をつかむ。次に、その問題を調べたり、実験することにより、できる限り自分で解決していく。どうしても解決できない問題を共同（グループ）で調べ、実験することになり、問題解決を図る。最後に、追究内容の方法、結果をクラス全員の子どもに検証してもらおうというものである。

この三段階の授業過程で授業を進めると、生徒は自分に合った内容・方法で主体的に学習を進めていく。追究内容の定着も大変よい。問題は、最後までがんばらず途中で挫折する生徒

がいる。他のグループの追究内容に対する関心が高まらない。授業時数の関係でいつもこの授業過程では行えない。などである。これは、栽培という関心の低い領域での実践であったからかもしれないし、授業過程に問題があるのかもしれない。結論は他の領域で実践してから出す。何はともあれ、事に対して、主体的に、前向きに対処する生徒の育成をめざし、今後も努力していくつもりである。

## 教育日々



## Mちゃんお元気ですか

矢作北中 鶴田紀美子

Mちゃんお元気ですか。

この二年間、本当に精いっぱいよくがんばったね。学級のみんなとよく笑い、返事をはっきりとし、大きな声で本が読めました。日記や作文もよくがんばったね。特に、卒業前に書いた作文「私の歴史」では、二十八

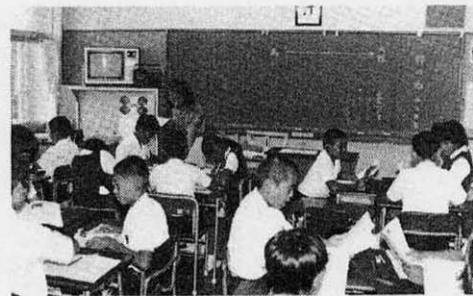
枚という長文を書いて、私もびっくりするほどのがんばりをみせてくれましたね。あなたも自分自身に満足感を持ったことでしょう。

それにしても五年生のはじめに「赤い風船」を学習している時、だれかが「Mちゃんは、読まんだよ」と、あなたをかばって、読まずにすまそうとしました。しかし、読めないからこそ、何度も読むべきではないでしょうか。毎日読まなければ、伸びる力もつきません。だから、大きな声ではっきりと読む。という目標をあなたに持たせたのです。

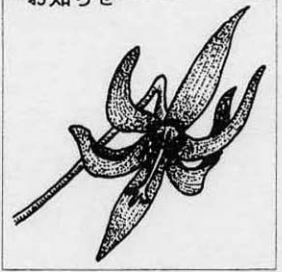
五年生の詩の教材「からす」では、一時間の学習の中で七回は読むようにしました。あなたは、声を出して読むことで、一字一字をていねいに読むようになりましたよ。「大造じいさんとがん」を九月に学習した時は、かなりはつきりと読めました。

「M子、おまえ大きな声が出るだなあ」と級友をおどろかせるほどだったね。読める」という自信がついたあなたは、八〇〇字もの日記を書いたり、大きな声でわらったり、友だちとも仲良くなったりましたね。

六年生になつてからも、めき



めき力を伸ばしました。読みとりの目あてを立てて読んで、班のなかで読んだりすすんで学習しましたね。あなたの学習ぶりをみて、クラスみんなもよく努力しました。口の体操、十分間朗読、そして、六名プランにもとづいた国語の授業と、はりきってやりました。「六名小の卒業生です」と胸はって答えられる三十九名だと思っています。Mちゃん、あなたが、「春休みの中でマラソン旅行は終わりました。先生が中学校に変わってしまいい連絡できませんでした」と、手紙をくれた時、中学校へのあなたの意気込みをみました。お互いに中学校で精いっぱいやりましょうね。ではまた。



# 学校緑化日本一

## 根石小と美川中

国土緑化推進委員会主催、文部省、農林水産省など後援の全日本学校環境緑化コンクールで根石小と美川中がそろうて特選に選ばれた。来る五月二十三日栃木県矢板市で開かれる第三十三回全国植樹祭会場で表彰される。

根石小は、「緑に学び、緑と語り、進んで緑を育てる子の育成」をテーマに昭和四十七年から積極的に取り組んで来た。昭和五十五年度から、子どもたち自身のねらいとして「緑は友だち」

を設け、みどりの手帖・みどりのポスト・さし木運動・一人一鉢運動・学区への呼びかけ等多彩な活動を進めている。

美川中は、昭和四十八年度から「緑を育てる緑に学ぶ」をテーマ

### 【寄贈刊行物・資料等】

- ◆つとめてやむな矢作南小学校
- ◆子どもへのとびら―第八集― 羽根小学校
- ◆藤川小の教師 藤川小学校
- ◆おかさきっ子展実践記録 現職教育園工・美術部 教務主任会
- ◆ふれあい

### ◆自然とともに

- 自然の家利用委員会
- ◆栄光への道(三) 矢作中学校
- ◆やまなか―学校文集― 山中小学校
- ◆甲山の友 甲山中学校
- ◆明日を拓く生活指導 十七集 生活指導部・愛護センター

### ◆学校文集「みしま」

- 三島小学校
- ◆ともに励まし合って伸びる子ども育成 本宿小学校
- ◆網統実践集録 現職教育統計教育部
- ◆文集「おかさき」第十九集 現職教育園語部

### ◆昭和五十七年度 岡崎市小中学校長会役員

- 〔小中学校長会〕
- ◆会長 岸田達夫(三島小)
- ◆副会長 荻野富義(梅園小) 神谷四士保(南中) 浅井渡一(甲山中)
- ◆監査 岩瀬元(美合小) 小林績(東海中)
- ◆庶務 内田松夫(広幡小) 大原和之(矢作中)
- ◆会計 柴田清(城南小) 栗田昭夫(矢北中)
- ◆評議員 長嶋利一(連尺小) 澤田昇(根石小) 太田憲吾(大樹寺小) 鈴木依治(竜美丘小) 星野美(矢東小) 杉田富貴男(岡崎小) 山本昇(六名小) 細井浩平(矢北小) 犬塚鑑治(美川中) 高橋孝(岩津中) 渡辺尚三(竜海中) 藤井清(城北中) 大賀真一(葵中) 柴田正(福岡中)
- 〔小学校長会〕
- ◆会長 荻野富義(梅園小)
- ◆副会長 長嶋利一(連尺小) 澤田昇(根石小)
- ◆監査 岩瀬元(美合小) 庶務 内田松夫(広幡小)
- ◆会計 柴田清(城南小)
- 〔中学校長会〕
- ◆会長 浅井渡一(甲山中)
- ◆副会長 神谷四士保(南中) 渡辺尚三(竜海中)
- ◆監査 小林績(東海中)
- ◆庶務 大原和之(矢作中)
- ◆会計 栗田昭夫(矢北中)

### ◆昭和五十七年度学校訪問

- ▽県教委指導主事訪問
- ・義務教育課 矢東小・常磐中・教職員課 生平小・六ッ美中
- ・特殊教育課 緑丘小・城北中
- ▽市教育委員訪問
- 五月二十日 六中小・六南小
- 六月二十八日 香山中・常磐小
- 十月二十五日 連尺小・竜海中
- 十一月十八日 福岡小・南中
- 一月十七日 矢西小・矢北中
- ▽市教委指導主事訪問
- 小学校十一校・中学校二校予定

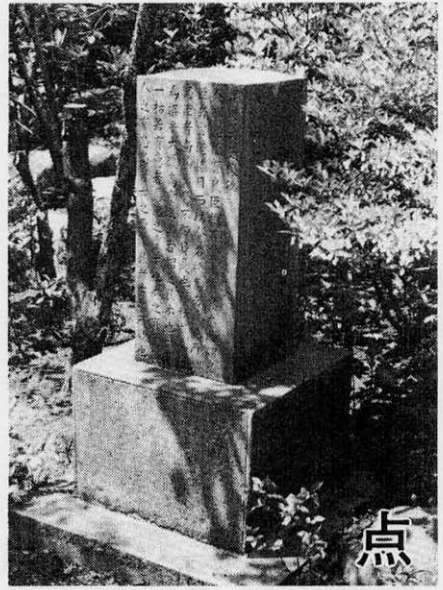
### ◆昭和五十七年度研究発表表

- 本年度の研究発表予定校は次の通りである。
- ▽6/1・秦梨小 みずから学ぶ秦梨教育(健康教育)
- ▽6/16・甲山中 自己確立をめざす甲山教育
- ▽6/18・河合中 汗する教育(環境保全)

- ▽9/21・城北中 豊かな人間性を育てる特別活動
- ▽9/28・大樹寺小 社会科・理科の学習深化をめざして(視聴覚)
- ▽10/5・美合小 自らやり、わかり、できる子を育てる学習指導
- ▽10/19・羽根小 人間性豊かな子どもの育成
- ▽10/29・本宿小 ともに励まし合って伸びる子どもの育成(文部省)
- ▽11/12・香山中 気づき考え実行する生徒の育成(赤十字)
- ▽11/19・20・梅園・岡崎・六北・美川・城北 喜びを高め合う音楽指導(全国大会)
- ▽11/26・東海中 自ら考え正しく判断できる力を育てる
- ▽1/21・岩津小 基本的事項の定着をめざす算数教育
- ▽1/28・根石小 望ましい読書指導の探求

- 〔小学校長会〕
- ◆会長 荻野富義(梅園小)
- ◆副会長 長嶋利一(連尺小) 澤田昇(根石小)
- ◆監査 岩瀬元(美合小) 庶務 内田松夫(広幡小)
- ◆会計 柴田清(城南小)
- 〔中学校長会〕
- ◆会長 浅井渡一(甲山中)
- ◆副会長 神谷四士保(南中) 渡辺尚三(竜海中)
- ◆監査 小林績(東海中)
- ◆庶務 大原和之(矢作中)
- ◆会計 栗田昭夫(矢北中)





点

所在地—岡崎市八帖町

## 早川家元屋敷碑

岡崎の名産「八丁味噌」は古くから八帖町の産で参州味噌、または三河味噌とよばれてきた。現在、「八丁味噌カクキュー会社」(旧名早川久右衛門商店)と「八丁味噌太田商店」の二店がつくられている。

早川家は戦国武士から土俗化したといわれる久右衛門勝久が始祖であり、矢作橋に近い三河の国額田郡八丁村(現在の岡崎市八帖町)で味噌づくりをはじめたのは正保年間(一六〇〇年代)といわれる。しかし、早川家創業口伝によれば貞治元年

(一三六二年)ごろ矢作川西岸において自家用の豆味噌を製造したとあり、軸越町本郷に早川家屋敷があった。

現在の八帖町の早川家には安政二年(一八五五年)建立の一メートルほどの石碑がある。この碑は元屋敷にあったものであり、早川家始祖久右衛門と早川家の霊木である榎にまつわる伝説について刻まれている。早川家の多くの系図・文献等は明治十五年(一八八二年)の矢作川洪水により流出しており、この碑は貴重な記録の一つである。

●カ  
ツ  
ト

矢作南小

大村

寛

## この本を

- 新釈遠野物語 井上ひさし 880円
- 家庭教育に今なにが必要か 竹内均他 4名 1,100円
- 感じる力を育てる 近藤 章久 1,500円
- 死にたがる子 藤原 審爾 240円
- 旅路 藤原 てい 980円
- 女へんの漢字 藤堂 明保 260円
- オヤジ学入門 三浦 朱門 280円
- すこし枯れた話 高橋 義孝 1,000円
- 風俗学・路上の思考 多田道太郎 850円
- 酒と私 稲生 永他 700円

遅くなってしまったなあ。あと、三軒か。はやくまわらなければ。話す時間は一軒あたり五分の予定と考えつつ、ついで遅くなってしまふ家庭訪問。

学校での様子、友達関係。果ては、ゲームウォッチを買い与えるかどうか。子故の闇かなあ。実感、親思う心に至る親心。



歩みたしかにとさまざまな期待をこめてスタートとした新年度も一か月が過ぎた。勉強してほしい、がんばってほしい、よい子であってほしいと願いは大きい。教育はよい習慣の定着にあるといわれる。静かに話を聞く、忘れ物をしないなど、まずよい学習習慣を身につけたいと思う。

静かな学習態度。アメリカで優秀と言われる学校では一斉授業に徹し、教えることはとことん教えるという。スペインの高校では作業学習でも絶対話さない。質問は教師の耳元で小声で話す。トイレは黙って静かに出ていく。教師の服装も整然としてハイヒールははかない。海のむこうの教育事情であった。

すいこまれるような青い空に鯉のぼりが泳いでいる。青空を水に例えた発想と色彩感覚に素晴らしいを感じた。黄河の急流にある龍門という滝を登ろうと、多くの魚が試みたが、わずかなものだけが登り、龍と化したという。親の願いは果てしなく大きい。

雲払う 軒の藜や 鯉職 青々